

平成27年度 国語科教育にかかわる現状と課題

部長 中野 英康

1 国語科教育の動向

【上越地区】

上越市と糸魚川市では、授業研究を中心に研修を深めている。上越市は寺島元子教諭（春日新田小）、糸魚川市は渡邊興勝教諭（糸魚川小）、古海美保教諭（下早川小）がそれぞれ授業を公開している。一方、妙高市と柏崎市・刈羽村では講演会や実技指導を中心とした研修を行っている。妙高市は荒川圭子校長（大和小）による書写指導と古閑晶子准教授（上越教育大）の講演会、柏崎市・刈羽村は佐藤佐敏教授（福島大）による国語教育講座を開催した。

【中越地区】

三条市、見附市、加茂市は来年度から教科書会社が変わることから、教科書活用の研修を行った。三条市は浅野秀之校長（漆山小学校）による模擬授業と講義、見附市と加茂市は教科書会社の編集者による講義と演習を行った。また、十日町市・中魚沼郡は授業研究会を3回実施し指導力向上に力を入れている。筑波大附属小の白石範孝教官、池田由美教諭（松之山小）、大淵利枝子教諭（十日町小）の3名の授業を公開した。燕市と加茂市も授業研究に力を入れ、前澤めぐみ教諭（燕西小）、鎌倉綾香教諭（石川小）が授業を公開している。南魚沼市、魚沼市、小千谷市は部員が主体的に参加できるよう参加型ワークショップ（南魚沼市）を取り入れたり、短歌の作り方指導（魚沼市）、学年別グループ研修会（小千谷市）を行ったりして工夫ある研修会を行っている。

【下越地区】

講演会による研修を行った後、指導案検討会を経て授業を公開している郡市が多い。渡部絵里奈教諭（三川小）と小嶋亜由美教諭（橋田小）が「書くこと」で授業を公開し、高橋成子教諭（胎内小）と稲村佳奈恵教諭（猿橋小）が「読むこと」で授業を公開している。また、鈴木舞子教諭（関川小）はICTを活用した授業を公開している。さらに、佐渡市では授業研究を2回実施し、部員の指導力向上に力を入れている。須田寛子教諭（畑野小）による「やまなし」の授業と松田健太教諭（金井小）による「ごんぎつね」の授業を公開した。そのほかに、阿賀野市のレポート研修と読書指導に関する講演会を開催するなど、それぞれの地区で充実した研修会が行われていた。

【新潟市】

「単元を貫く言語活動」を中核に捉えた授業づくりの研究を進め、3つの地区で6人の教諭が授業を公開した。授業者は東地区では小林貴美子教諭（中野山小）と鈴木聡子教諭（木戸小）、中央地区では権平彩子教諭（新津第三小）と大江絵美教諭（新津第二小）、西地区では金子江里子教諭（立仏小）と賀田祐介教諭（大野小）がそれぞれ公開した。

2 国語科教育の課題

指導案検討会を設けて授業研究会を実施する地区が昨年度同様多く見られた。また、参加型ワークショップや報告会、実技指導、演習など、部員の主体的参加を促す研修スタイルも目立った。

今後の課題として、部員一人一人の授業力向上を図るためにも次の2点を挙げたい。

- ① 新しい教科書の研究を十分行い、児童に国語の学力を確実につけることのできる指導法の研究をすること。
- ② 明確な言語活動と明確なねらいを設定した授業が構想できるよう素材研究及び教材研究の力を高めること。